

事業群評価調書(令和3年度実施)

| | | | | |
|-------|--------------------------------------|----------------|--|-------|
| 基本戦略名 | 1-3 長崎県の未来を創る子ども、郷土を愛する人を育てる | 事業群主管所属・課(室)長名 | 教育庁 学芸文化課 | 草野 悦郎 |
| 施策名 | 2 郷土を愛し、地域を支える心豊かな人材の育成 | 事業群関係課(室) | 体育保健課 | |
| 事業群名 | ⑥ 創造性や独創性など豊かな人間性を育てる子どもたちの文化芸術活動の推進 | 令和2年度事業費(千円) | ※下記「2. 令和2年度取組実績」の事業費(R2実績)の合計額 25,365 | |

1. 計画等概要

| | | | | | | | | | | |
|--|------|--|------------|---------|-----------|-----------|--|-----------|----------------|---|
| (長崎県総合計画テュンジ&チャレツンジ2025 本文) | | | | | | | (取組項目) | | | |
| 子どもたちの文化力の向上と裾野の拡大を図るため、市町教育委員会や中学校文化連盟、高等学校文化連盟と連携し、中・高の文化芸術活動の充実と活性化に取り組みます。また、子どもたちの豊かな人間性を育むため、鑑賞や成果発表の機会を提供します。 | | | | | | | i) 中高文化部活動への支援や研修会の実施 ii) 小・中・高校生への優れた芸術の鑑賞機会、成果発表機会の提供 | | | |
| 事業群 | 指標 | | 基準年 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 最終目標(年度) | 【進捗状況の分析】 「子ども県展」は、市町教育委員会及び県造形教育研究会と連携し、児童生徒の図画工作・美術に対する意欲・関心を高めるとともに、創作の喜びを味わわせ、また、作品の鑑賞を通して、表現力の向上や豊かな情操の育成を図ることを目的として、県内の小・中学校及び特別支援学校小・中学部の児童生徒を対象に作品を募集し、優秀作品の表彰及び作品展を開催している。 令和2年度も、80,000人を超える応募があった。平成17年度に県の主催事業となって以降、募集方法の改善や、作品づくりの授業への組み込みなどを推進した結果、ここ数年は70%を超える応募率を維持している。 |
| | 目標値① | | | 75.0%以上 | 75.0%以上維持 | 75.0%以上維持 | 75.0%以上維持 | 75.0%以上維持 | 75.0%以上維持 (R7) | |
| | 実績値② | | 74.7% (R元) | | | | | | | |
| 達成率②/① | | | | | | | | | — | |

2. 令和2年度取組実績(令和3年度新規・補正事業は参考記載)

| 取組項目 | 中核事業 | 事業番号 | 事務事業名 | 事業費(単位:千円) | | | 事業概要 | 指標(上段:活動指標、下段:成果指標) | | | 令和2年度事業の成果等 | |
|--------|------|------|-------------------|----------------|--------------|------------------|---|--|------|------|-------------|--|
| | | | | R元実績 | うち一般財源 | 人件費(参考) | | 主な指標 | R元目標 | R元実績 | | 達成率 |
| | | | | R2実績 | | | | | R2目標 | R2実績 | | |
| | | | | R3計画 | | | | | | | | |
| | | | | 事業実施の根拠法令条項 | | | | | | | | |
| | | | 事業期間 | 法令による事業実施の義務付け | 県の裁量の余地がない事業 | 他の評価対象事業(公共、研究等) | | | | | | |
| | | | 所管課(室)名 | | | | | | | | | |
| 取組項目 i | ○ | 1 | 中学校・高等学校文化活動推進事業費 | 20,825 | 20,825 | 7,159 | 中学校・高等学校の文化活動の推進とすそ野の拡大を図ることを目的として、積極的に活動する部活動等を指定し、その活動に対する助成を行うとともに、県総合文化祭及び全国総合文化祭への参加費等への支援を実施した。また、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった全国中学校総合文化祭の代替大会やWeb開催に変更になった全国高等学校総合文化祭について、映像作成等の経費の支援が行えるよう補助要綱等を変更して補助を行なった。 | 【活動指標】 文化活動推進校(中・高)指定種目に指定した部活動数(部) | | | | ●事業の成果 ・中学校・高等学校の文化活動推進指定校による文化活動の育成強化への支援や、県総合文化祭開催及びWeb開催に変更になった全国高等学校総合文化祭参加への支援等により、県中学校文化連盟及び県高等学校文化連盟の連携が強化されるとともに、中学校・高等学校の文化活動の活性化の推進が図られた。 |
| | | | | 14,881 | 14,881 | 7,824 | | | 45 | | | |
| | | | | 24,290 | 24,290 | 6,282 | | | | 82 | | |
| | | | H18- | | | | | | | | | |
| | | | 学芸文化課 | — | — | — | 中学生、高校生、教員 | 【成果指標】 強化指定種目(中・高)のうち九州大会以上に出席した部活動の割合(%) | 85 | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|--------------|--------------------|--------------------|-------------|---|--|---|-----------------|--------|--------|---|--|
| 取組項目 i | 2 | 部活動指導員配置事業費 | | | | 「実技指導、安全・障害予防に関する知識・技能の指導」、「学校外での活動の引率」、「用具施設の点検・管理、部活動の管理運営」、「保護者等への連絡、年間指導計画の作成」、「生徒指導に係る対応」、「事故が発生した場合の現場対応」などができる部活動指導員を県立学校に配置した。このことにより教員の多忙化解消、負担軽減を図った。 | 【活動指標】 | | | | ●事業の成果 ・部活動指導員の配置校では、顧問の部活動に従事する時間が削減されるとともに、会議等の業務の効率化が進み、教員の負担軽減につながった。 |
| | | | 415 | 415 | 2,347 | | 文化部活動指導員の配置数(人) | 2 | 2 | 100% | |
| | | | 905 | 905 | 3,927 | | 【活動指標】 | | | | |
| | | | | | 文化部活動指導員の配置時間以上に教員が部活動に従事する時間数を縮減した学校の割合(%) | | 100 | 100 | 100% | | |
| | | R2- | | | 【成果指標】 | | | | | | |
| 体育保健課(学芸文化課) | | | 県立学校 | 配置校における当該部活動担当教員のうち負担を軽減できたと感じた教員の割合(%) | 100 | 100 | 100% | | | | |
| 取組項目 ii | ○ 3 | 魅力あふれる児童生徒の作品展開催事業 | 2,310 | 2,310 | 5,568 | 子どもたちの図画工作・美術に対する意欲・関心を高めるとともに、創造の喜びを味わわせ、表現力の向上や豊かな情操の育成を図るため、県内小・中学校の児童・生徒を対象とする作品を募集し、優秀な作品の表彰及び展示(総合展・巡回展)を行った。 | 【活動指標】 | 100 | 86 | 86% | ●事業の成果 ・「子ども県展」に向けた制作を通じて、表現力の向上と、県内の子どもたちの図画工作・美術に対する興味・関心を高めることができた。 |
| | | | 2,437 | 2,437 | 5,477 | | 子ども県展参加校数の割合(%) | 100 | 86 | 86% | |
| | | | 3,919 | 3,919 | 4,712 | | 【成果指標】 | 78,585 | 80,122 | 101% | |
| | | | | | 子ども県展応募者数(人) | | 77,860 | 80,531 | 103% | | |
| | | H18- | | | | | 79,188 | | | | |
| | 学芸文化課 | | | 小学生、中学生 | | | | | | | |
| | ○ 4 | 子ども舞台芸術鑑賞事業 | 8,405 | 8,405 | 5,568 | 子どもたちの豊かな感性や情操を育み、文化活動の振興を図るため、幼・小・中・特別支援学校の幼児・児童・生徒を対象として音楽・演劇・古典芸能など優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供した。 | 【活動指標】 | 25 | 25 | 100% | ●事業の成果 ・幼・小・中・特別支援学校の幼児・児童・生徒を対象とする音楽・演劇・古典芸能など優れた舞台芸術鑑賞の機会の提供等により、子どもたちの豊かな感性や情操を育むことができたが、新型コロナウイルス感染症の影響により10公演を中止し、達成率は低くなった。 |
| | | | 5,609 | 5,609 | 4,694 | | 青少年劇場公演数(公演) | 25 | 15 | 60% | |
| | | | 7,900 | 7,900 | 4,712 | | 【成果指標】 | 7,563 | 8,236 | 108% | |
| | | | | | 青少年劇場鑑賞者数(人) | | 6,842 | 2,134 | 31% | | |
| H18- | | | | | 4,883 | | | | | | |
| 学芸文化課 | | | 幼児、小学生、中学生 | | | | | | | | |
| ○ 5 | ながさき“若い芽”のコンサート開催費 | 1,959 | 1,959 | 5,568 | 子どもたちの豊かな心の育成と青少年の文化活動の振興を図ることを目的として、クラシック音楽を志す子どもたちの発表の機会を提供するため、ながさき“若い芽”のコンサートを開催した。 新型コロナウイルス感染症の影響により、コンサートは出演者の関係者に限定して開催したため、より多くの方が鑑賞できるよう、コンサートの様子を動画公開した。 | 【活動指標】 | 1 | 1 | 100% | ●事業の成果 ・クラシック音楽を志す子どもたちの発表の機会提供として、ながさき“若い芽”のコンサート開催により、子どもたちの豊かな心の育成と芸術文化活動に取り組む人材の育成が図られた。 | |
| | | 2,023 | 2,023 | 4,694 | | コンサート開催回数(回) | 1 | 1 | 100% | | |
| | | 3,180 | 3,180 | 4,712 | | 【成果指標】 | 150 | 155 | 103% | | |
| | | | | オーディション応募者数(人) | | 152 | 213 | 140% | | | |
| | S62- | | | | | 155 | | | | | |
| 学芸文化課 | | | 小学生、中学生、高校生 | | | | | | | | |

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

| | | | |
|---|--------------------|---|--|
| i | 中高文化部活動への支援や研修会の実施 | <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>中学校・高等学校の文化活動については、全国大会や九州大会において上位入賞など優れた成績を収めており、年々、文化活動の活性化が図られている。</p> <p>今後も全国レベルで活躍することを目指し、さらなる文化力の育成とすそ野の拡大を図るため、継続的に支援を行う必要がある。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>今後も、県中学校文化連盟及び県高等学校文化連盟と密に連携しながら、全国レベルで活躍できる部活動や、地域に根ざした活動を行う学校等への活動経費を支援していく。また、県中学校総合文化祭や県高等学校総合文化祭「しおかぜ祭」の開催経費を支援していく。</p> |
|---|--------------------|---|--|

ii 小・中・高校生への優れた芸術の鑑賞機会、成果発表機会の提供

●実績の検証及び解決すべき課題

・音楽、演劇、古典芸能などの優れた舞台芸術鑑賞事業は、鑑賞機会の少ない離島・半島地域の学校や特別支援学校を優先して実施しており、離島地域を含む多くの子どもたちに芸術鑑賞の機会を提供している。本事業は、子どもたちが優れた文化芸術に直接触れることのできる有効な施策であり、歴史・伝統・文化に対する理解を深め、豊かな感性や情操を育むため、今後も、継続する必要がある。
 ・「子ども県展」は、県内小・中学校の図画工作・美術における学習活動の成果を発表する機会として広く定着し、子どもたちの目標の一つとなっている。令和2年度の応募率については、目標値を達成することができ、子どもたちの図画工作・美術に対する意欲・関心の高揚に寄与することができた。
 ・「ながさき“若い芽”のコンサート」は、子どもたちの発表機会として広く定着し、クラシック音楽を志す県内の子どもたちの目標の一つとなっている。令和2年度は、過去最多の応募があり、多くの子どもたちに発表の機会を提供することができたが、これは新型コロナウイルス感染症拡大により他の音楽コンクール等のほとんどが中止となったことが影響していると考えられる。

●課題解決に向けた方向性

・舞台芸術鑑賞事業は、今後も、周知徹底を図り、学校間の合同開催などの方法によって、多くの子どもたちに芸術鑑賞の機会を提供し、歴史・伝統・文化に対する理解を深め、豊かな感性や情操を育む機会としていく。
 ・「子ども県展」は、子どもたちの図画工作・美術に対する意欲・関心を高めるとともに、豊かな情操を育成するため、県造形教育研究会との連携を密に図りながら、不参加校への働きかけを引き続き行うなど、さらなる普及啓発の推進を図る。
 ・「ながさき“若い芽”のコンサート」は、コンサート及びオーディション開催地域の周辺地域にポスター・パンフレットを重点的に配ることで効果的・効率的な広報活動に注力し、また、オーディションの申し込みを簡易化するために手続きをインターネットでも行えるようにすることで、オーディション応募者のさらなる確保を図る。

4. 令和3年度見直し内容及び令和4年度実施に向けた方向性

| 取組項目 | 中核事業 | 事業番号 | 事務事業名 事業期間 所管課(室)名 | 令和3年度事業の実施にあたり見直した内容 ※令和3年度の新たな取組は「R3新規」等と、見直しが無い場合は「―」と記載 | 令和4年度事業の実施に向けた方向性 | | |
|---------|------|------|--------------------------|--|-------------------|---|-------|
| | | | | | 事業構築の視点 | 見直しの方向 | 見直し区分 |
| 取組項目 i | ○ | 1 | 中学校・高等学校文化活動推進事業費 | 新型コロナウイルス感染症により、大会中止等になった際の取消料に対応するため、全国中学校総合文化祭、全国高等学校総合文化祭の補助要綱の見直しを行った。 | — | 高等学校においては、引き続き地域や市町や学校の枠を越えた文化活動の推進を図り、県総合文化祭「しおかぜ祭」開催の支援など、文化活動の活性化を図る必要がある。 中学校においては、平成30年度第18回全国中学校総合文化祭長崎大会を契機として、引き続き文化活動の育成・強化を図るとともに、生徒の文化に対する意欲向上を継続的に図る必要がある。 また、中学校、高等学校とともに、全国レベルで活躍できる学校部活動等に対する活動経費の支援を行い、各校が切磋琢磨をしながら、さらなる大会成績向上を目指すために継続的に支援する必要がある。 | 現状維持 |
| | | | H18- 学芸文化課 | | | | |
| 取組項目 ii | ○ | 3 | 魅力あふれる児童生徒の作品展開催事業 | これまで県内小中学校、各市町教育委員会及び教育機関に募集案内を送付し、ポスター・チラシを配布するなど、広報活動に力を入れることで高い応募率を維持している。 子どもたちの図画工作・美術に対する関心を高めるとともに、豊かな情操を育成するため、県造形教育研究会との連携を密に図りながら、不参加校への働きかけを引き続き行い、さらなる普及啓発の推進を図る。 | ②⑥ | 「子ども県展」は、県内の小中学校の学習活動の中で制作する図画工作・美術作品の発表機会として、県内の子どもたちに広く定着し、子どもたちの目標の一つとなっており、年々、児童生徒数が減少する中、応募率は高い水準を維持している。 今後も、子どもたちの図画工作・美術に対する関心を高めるとともに、豊かな情操を育成するため、県造形教育研究会との連携を密に図りながら、不参加校への働きかけを引き続き行うなど、さらなる普及啓発の推進を図る。 | 改善 |
| | | | H18- 学芸文化課 | | | | |
| 取組項目 ii | ○ | 4 | 子ども舞台芸術鑑賞事業 | 新型コロナウイルス感染症による公演取消に対応するため、補助要綱等の見直しを行った。 | — | 音楽・演劇・古典芸能など優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、歴史・伝統・文化に対する理解を深め、これらを尊重する態度や文化芸術を愛好する心情や感性を育み、豊かな心の涵養を図る。今後も、効果的・効率的な事業の実施を図り、優れた文化芸術の鑑賞・体験機会を多くの子どもたちに提供する必要がある。 | 現状維持 |
| | | | H18- 学芸文化課 | | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|---|--------------------|--|---|--|------|
| 取組項目 ii | ○ | 5 | ながさき“若い芽”のコンサート開催費 | 声楽、ピアノ、弦楽器・ギター、管・打楽器の4つの部門で構成される青少年を対象とするコンクールであり、クラシック音楽を志す県内の子どもたちの目標となっている。県内の教育機関や音楽教室などにポスターを配布するなど周知徹底を図り、また、オーディションの申し込みをインターネットで行えるよう簡易化することで、さらなる応募者の確保を図る。 | — | 「ながさき“若い芽”のコンサート」は、県内の他のコンクールには類がない声楽、ピアノ、弦楽器・ギター、管・打楽器の4部門の構成であり、子どもたちの発表機会として広く定着し、クラシック音楽を志す県内の子どもたちの目標の一つとなっている。音楽の喜びを体験することは、継続して芸術文化活動に取り組む人材を育成するうえで非常に有効であり、子どもたちの豊かな情操を養い、より豊かな人間性を育む。今後も、引き続き広報活動を実施し、オーディション応募者のさらなる確保を図る必要がある。 | 現状維持 |
| | | | S62- | | | | |
| | | | 学芸文化課 | | | | |

注:「2. 令和2年度取組実績」に記載している事業のうち、令和2年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができているか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点